

# 本日のテーマ「夏の本」

実施日：2017年7月21日

- 1 「ペローの昔ばなし」 グリム童話と比べて読むのもオススメ  
 シヤルル・ペロー／作 今野一雄／訳 1996年 白水社 【388ペ】  
 ↑(フランスの人です)



実はちょっと怖いおとぎ話の世界。シンデレラや赤ずきんと  
 11人の子供、グリム童話が知られていますか、もっと前に書かれたのか、  
 100年の昔ばなし。それぞれのお話に教訓がつけられているので、  
 それだけ読んで面白いです。100歳は44歳の時(19歳の奥さんと  
 結婚したもよう)、それかあつて、若い女性向けの教訓が強いです。

- 2 「金魚ノ歌」 深堀隆介／著 2016年 河出書房新社 【723.1】



“観賞魚”のコーナーではなく“日本の絵画”のコーナーに置かれて  
 いる金魚の本です。器に透明樹脂を流し込み描かれて  
 いるのが、とにかくリアルで今にも重なりたいそう。  
 ぜひ、ほかも見てください!!

- 3 「夏と花火と私の死体」 乙一／著 2000年 集英社 【SNオ】



夏といえばホラー!! タイトルだけでぞわぞわとできる短編小説。  
 殺された9歳の女の子の視点で語られているので、つたない  
 文章でもあるところからまた暗い雰囲気を感じていきます。  
 死んだ側、殺した側、どちらにも共感できます!!

- 4 「七日間の幽霊、八日目の彼女」 五十嵐雄策／著 2016年 KADOKAWA 【YSNイ】



交通事故で入院することになった大学生のアキラの前に  
 現れた謎の少女イナカ。タイトルだけみると、ホラーのよ  
 ですけど、中身は、恋と星の物語♡表紙もさおやか々  
 七かなくて、最後には彼女の正体もわかります。  
 イナカの名前は、一頁と書きます。夏の本”にこの2りの名前です。

- 5 「伊藤まさこの食材えらび」 伊藤まさこ／著 2013年 PHPエディターズ・グループ 【596】



夏は、暑くて、食欲がなくなり、料理もしたくなくなりますね。  
 エイッと気合を入れて、ちょっといい食材を買って、  
 いづれとは、ちかう料理をしてみませんか?  
 「とんとおりー」・「ドライマトマリネ」・「ネギ豆腐」等、夏におススメ!!

- 6 「職人の手仕事 vol.13 線香花火」 2013年 ゼネラルアサヒ 【750.2】



長崎の子どもたちは、お盆に「花火代」という名のお金を  
 もらいます。福岡に出てくるまで、それが「当り金」と思っ  
 ていた長崎育ちの司書が、すすめる線香花火の本。  
 職人の手仕事シリーズとして、他にも博多包丁やフランス菓子も  
 「白菊」 あります。

- 7 「白菊」 山崎まゆみ／著 2014年 小学館 【575.9】



某書店さんか、ひそかに激オシしていた本。  
 魂がゆさぶられ、最後までその振動が止まらない...  
 それほどの感動が得られる本がそうです。  
 ぜひ、この夏の季節に手に取ってみて下さい。  
 伝説の花火師の生涯をたどる感動のノンフィクション!!

